編輯室內外

道路問題は勿論地政學とか國土計畫とか疎開とかは先づ第一に五萬分の一地圖が最も必要である。之れがなくては如何とも爲すことが出來ない。所が此の地圖は陸軍陸地測量部の一大功績である。其の堅實無比な技術的傳統は五萬分の一地圖となつてあらわれて居る。米國の地理學會すら「地殼變動の測定に關しては如何なる國民といへども日本人に匹敵するものはない」と我國地球物理學者の仕事に恐畏の言を出さしめて居る。五萬分の一地圖に付ての取扱ひ方讀み方は勿論其の貴重さを一般に知らしむべきである。

單に防空の故のみでなく、都會人口集中の弊は夙に認めらるる所で、吾人が農村に於て有識者の閑散の身を都會に生活する者に國民學校名譽校長の職を設けて之に當らしむることも一策であらうと說いたことも數年前よりのことである。近時大都市の疎開が喧數唱道せらるるが、大都會地が地方の割合に人口が過多で極めて不健全な狀態であり、知識階級者が都會に集り地方町村は知識階級者の不足を來たしたる實情に在ることは今日始まつたことではない、吾人の所論を實踐したならば今日の疎開問題も幾分緩和されたことであらう。何にはともあれ第一に人物の疎開を圖る爲めに此際地方町村をして其の鄉黨に知識經驗者を導入する爲めに尊敬の念を以て名譽有給とを問はず知識經驗者に其の位地を與へ以て歸鄉に便ならしむることがある。人物疎開の一策である、何れにしても地方自體が都會人を受け入れるに工夫を凝らすが要緊事である。

勝敗の歸趨を決すべき秋は益々短縮されつゝある航空基地に依り正に今日只今であつて明日ではない。一人の怠慢一時間の遲滯も全能力に敏感に作用することを忘れてはならない。修身齊家治國平天下といふ順序で、已れ先づ身を修め而して家を齊へて始めて天下に主唱することが出來るのである。個人的生活と公的生活とは別物の如き觀念で私的生活上では買溜、濫費、贅澤を爲し又は之を家族に許し、一且公的生活に立つや消費の規正嚴密肅清を論ずる。之を何んと評すべきか。私かなる生活の贅澤、買溜、宴樂、蓄妾等を敢てし身を修め得ず家を齊へ得ずしては如何で民衆に臨むことを得るや。儀禮や御座形やは禁物である。愴烈な激戰の眞只中に居る吾人は嚴淸と決心と勇氣と敢鬪とを要求されて居る。深く考へ大に愼しむべきであると論ずる者あるは寔に吾れ人共に反省せねばならぬ。

決戰時下國民生活の最大重要物資は何んといふても米である。故に供出米とか米の還元とかが問題になり、二重配給とか橫流れとか清く明るく正しい配給が行はれないとか籾摺脫穀を嚴重に取締れとか、米の配給を切符制にすべしとか種々の論議が行はれておる。勿論一方ならぬ工夫か當局者に於て講ぜられておるであらうか、要は米糧の增加である。道路工夫の傭入には先づ食糧問題が第一である。一般人といへども夫れが生活上の大問題である。配給量が假令代用品であらうとも增加して腹ごたえがあれば議論はないのである。眞面目な農家が馬鹿々々しいといふ氣持にならないやう又一般國民が腹がへつては仕事か出來ないといふことにならないやうに願ひ度きものである。

青森縣上北郡藤坂村國民校に訓導、校長として明治十八年以來四十年間奉職、停年になつても生れ故鄉の北津輕郡中里町へ歸らうともせず、村に「昭和謝恩會」を興して風教の指導に一身を捧げた加藤源三先生（七七）は、赴任當時村の狀態を見て「これではいかぬ」と酒を斷ち、妻も娶らず『明るく正しく」を信條に榮轉の機會も問題にせず、村の父として敬慕されつゝ舊冬物故した　美しき一生を村に捧げた先生に村では村葬の禮を捧げたが、加藤先生に永久に村に留まつて頂きたいといふ村民の願ひは、先祖代々の中里町の墳墓に納骨を希望する遺族に容れられず、村民は教へ子の苦米地四樓少將を中心に「みたま報恩會」を組織し飽くまで恩師の村への永住を懇願するのだつたと」傳へらるる。美しい譚である。

用紙が極度に制限せられ編輯上寔に已むを得ずといふものの遺憾千萬である。何卒會員諸氏の御海恕と御諒解を希ひ願はざるを得ない。（洮）

（停）定價一部　金五十錢
一ケ年分　金六圓

發行所　東京都麴町區霞關一丁目內務省內
社團法人　道路改良會
電話銀座（57）〇四二七
振替口座番號東京一九〇二六

編輯發行者　東京都赤坂區氷川町一七　平井良成

印刷所　東京都小石川區諏訪町五六　株式會社常磐印刷所（東東三〇）

印刷者　奈良直一

日本出版會會員番號二二〇〇四五